

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年7月30日（金）10時00分～11時00分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、新井安全審査官、

横山係長、久川係員、高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

廣岡原子力防災専門官、田中原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当8名(テレビ会議システムによる出席)

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 1号機 PCV内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
    - ✓ 2019年4月19日から着手しているPCV内部調査装置(水中ROV)投入に向けた作業について、本年7月9日から15日にかけて、グレーチング下部鋼材、手摺(横部)の切断作業が完了した。今後、切断箇所をカメラで確認の上、9月中旬から次のステップとして電線管切断作業を予定している。
    - ✓ なお、上記のグレーチング下部鋼材等の切断作業により、建屋内作業エリア及び敷地境界近傍ダストモニタ等への影響は確認されていない。
  - 2号機 X-53ペネトレーション(以下「ペネ」という。)内調査の実施結果について
    - ✓ 本年6月29日、2012年1月の2号機原子炉格納容器(PCV)内部調査時からX-53ペネ内に残置されていた丸棒をワイヤーを具備した調査ロッドを用いて回収した。
    - ✓ 丸棒の回収時において、調査装置の一部として使用したグローブボックス内の線量上昇はなく、線量計の表示は調査装置周辺の線量率(バックグラウンド)と同等の6~7 mSv/h程度であった。
    - ✓ また、回収作業中及び作業後におけるPCV圧力に変動はなかった。
    - ✓ 本調査で使用した調査装置及び回収した丸棒については、2号機原子炉建屋内に設置した仮設ハウスで減容処理した後、固体廃棄物貯蔵庫に移管した。
  - 2号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
    - ✓ 2024~2026年度の2号機使用済燃料プールからの燃料取り出し開始に向け、2号機原子炉建屋内ではオペレーティングフロア(以下「オペフロ」という。)の線量低減に向けた作業を、建屋外では燃料取り出し用構台設置の準備工事を実施している。
    - ✓ 建屋内のオペフロの線量低減に向けた作業について
      - ◇ オペフロの線量低減に向けた作業として、今後の除染、遮蔽の設置及び干渉物撤去に当たって、2021年3月に実施したオペフロ調査結果を用いて線量評価を実施したところ、2018年の調査結果で得られた評価結果と比較して2割程度低くなる結果(有人作業を想定しているエリアでの線量率は、約1.4~2.1 mSv/h等)が得られた。
      - ◇ 現在、除染資機材の搬入作業を実施中であり、今後、線量低減作業時に

は、線量低減効果の確認を行い、大きく線量の影響がある箇所については、個別に対応することで目標線量（1mSv/h）に近づけていく。

- ✓ 建屋外の2号機燃料取り出し用構台設置の準備工事について
  - ◇ 現在、2号機の燃料取り出し用構台を設置する範囲にある地下干渉物（変圧器基礎、防災用地下タンク）の一部撤去及び地盤改良作業（改良範囲の掘削、汚染土の除去等）を実施している。
  - ◇ 今後は、8月上旬に工事エリア周辺で、現地における施工品質の確認のための地盤改良の試験施工、浅層部に地耐力の向上のためのMMS（Man Made Soil）の打設等を行った上で、地盤改良の本施工を本年9月末から実施する予定である。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
  - 1号機のPCV内部調査に係る干渉物切断作業のうち本年9月に予定している電線管切断作業について、当該作業に向けた準備状況等を含めて今後説明すること。
  - 今後予定されている2号機X-53ペネ孔径拡大等の燃料デブリ取り出しに向けた作業については、スケジュール感もあわせて、まとめ次第説明すること。

## 6. その他

資料：

- 1号機 PCV内部調査にかかる干渉物切断作業の状況
- 2号機 X-53ペネ内調査の実施結果について
- 2号機燃料取り出しに向けた工事の進捗について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール